

# 体育理論分科会

## 基調提案

「学校教育全体の教育課程の中に、体育理論の授業の位置づけを」

小山吉明（長野支部 須坂市立常盤中学校）

## 実践提案

「身体観を学ぶ ～身体加工の学習をとおして～」

鈴木佳子（静岡支部 浜松大平台高校）

## 参加者の感想（大会速報「かもがわ」より）

・体育理論で歴史、理念的なものを取り上げる必要性の再認識ができた。ただ、「体育」理論であるのに、「スポーツ」に特化しているのは、そうならざるを得ない構造も含めて見直す必要があると感じました。また、他教科との関係性などで、教育学的な視点が必要なのではないかという話もあったので、学問的に見直せるようなら勉強したいと思いました。（愛知・Tさん）

・小山先生のお話を聞き、体育理論というのはスポーツの存在価値であり、子どもたちがスポーツを行う上で一番大切なものだと感じました。

実際、中学生のころの体育理論を学んだ記憶がなく、今思うと残念です。いかに子どもたちの記憶に自然に残るかというところについては、小山先生が行っているように、他の教科や行事に結びつけていくことがとても大事なのだと感じました。（東京・Kさん）

・「身体観を学ぶ」という大変難しいテーマを設定して30時間も実践された鈴木先生には、知識としてきちんと教室で教えたいという信念がある。子どもの実情を変えたい（自傷行為、命の大切さを学ぶ）という思いが、広範にわたる教科研究に向かわせ、子どもたちもそこから多くのことを吸収している。体育理論の授業からできることをやらねばならないことがあると、こういう授業ができるのかと勉強させられた。（愛知・Yさん）